

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 信州大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人 信州大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 | |
|------|--|---|-----------------------|---------------------|----------|----|-------------|------|--|
| | | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | | | |
| 人文学部 | 人文学科 | 夜・通信 | 20 | — | — | 20 | 13 | | |
| 教育学部 | 学校教育教員養成課程 | 夜・通信 | | — | — | | 13 | | |
| 経法学部 | 応用経済学科 総合法律学科 | 夜・通信 | | — | — | | 13 | | |
| 理学部 | 数学科 理学科 | 夜・通信 | | — | — | | 13 | | |
| 医学部 | 医学科 | 夜・通信 | | — | — | | 19 | | |
| | 保健学科 | 夜・通信 | | — | — | | 13 | | |
| 工学部 | 物質化学科 電子情報システム工学科 水環境・土木工学科 機械システム工学科 建築学科 | 夜・通信 | | — | — | | 13 | | |
| | 農学部 | 農学生命科学科 | | 夜・通信 | — | | — | 13 | |
| | 繊維学部 | 先進繊維・感性工学科 機械・ロボット学科 化学・材料学科 応用生物科学科 | | 夜・通信 | — | | — | 13 | |
| | | (備考) | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| 信州大学シラバス検索システム「 https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top 」の「全学部対象検索」で「授業の内容・計画」について「実務経験」で検索することにより「実務経験のある教員等による授業科目」が確認できるようになっている。 |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 信州大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人 信州大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/philosophy/board/>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|---|-----------------------------|---------------------|
| 常勤 | 島根大学副学長 | 2021.10.1 ～ 2024.9.30 | 研究，産学官・ 社会連携担当 |
| 常勤 | 文部科学省大臣官房文 部科学戦略官 | 2021.10.1 ～ 2024.9.30 | 総務担当 |
| 常勤 | 八十二信用保証株式会 社 代表取締役社長 | 2021.10.1 ～ 2024.9.30 | 財務，環境施設担当 |
| 非常勤 | 内閣府 知的財産戦略 推進事務局 政策参与 (クールジャパン戦略 担当)，ジェトロ 評議 員 (現職) | 2021.10.1 ～ 2024.9.30 | ダイバーシティ推 進担当 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 信州大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人 信州大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | |
|--|---|
| <p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> | |
| <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、本学シラバスガイドラインに則り、①授業の基本情報(担当教員名、単位数、曜日・時限等)、②授業のねらい、③授業の概要(実務経験のある教員等による授業科目である旨の記載を含む)、④授業計画、⑤成績評価の方法、⑥成績評価の基準、⑦事前・事後学習に関する情報、⑧履修上の注意、等の項目について作成されており、作成内容の点検を経て、学生の授業選択、時間割作成時には、学外からのアクセスも可能なWeb上のシステムにて公表されている。</p> | |
| 授業計画書の公表方法 | https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top |
| <p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> | |
| <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>信州大学学士課程における教育課程編成・実施の方針を下記のとおり定めており、シラバスに記載された成績評価方法・評価基準により、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、厳格かつ適正な単位認定を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 信州大学は、学位授与の方針を達成するためのカリキュラムを体系的に編成します。 2. 信州大学は、学位授与の方針に基づいて授業の目標を設定します。 3. 信州大学は、授業目標を学生が適正な学修を通じて達成できるように授業をデザインし、実施します。 4. 信州大学は、授業において、授業目標への到達度で成績評価します。 <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。 ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。 ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。 | |

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

「GPA」とは、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表した成績の単位数に、それぞれの科目のGP (Grade Point) を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、GPの平均値 (Average) である。評語と評点とGPの関係を以下に示すとおりである。

| 評語 | 評点 | GP |
|-------|--------|------|
| 秀(S) | 90-100 | 4 |
| 優(A) | 80-89 | 3.33 |
| 良(B) | 70-79 | 2.67 |
| 可(C) | 60-69 | 2 |
| 不可(D) | 50-59 | 1 |
| 不可(F) | 0-49 | 0 |

※各科目の単位修得には、「可」以上が必要。

【GPA計算式】

$$GPA = \frac{[履修登録した科目の単位数 \times 当該科目のGP]の合計}{履修登録した科目の単位数(不可(D・F)を含む, 履修取消した授業は除く)合計}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/general/22754e4cd312d902d033ae9d2abf8890.pdf#page=71>
入学時配付の履修案内及び各学部の学生便覧に掲載されており、学部によってはホームページに掲げている。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

信州大学の理念と教育目標に基づき、学士課程において、次の方針に従って学位を授与します。

1. 各学部の教育理念により設定された教育課程において、基準となる単位を修得し、かつ学部が定める審査に合格している。
2. 次に掲げる各項の能力を有している。
 - ① 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力
 - ② 的確に情報を収集し、理解し、発信する力
 - ③ 持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力

各学部の方針

<https://www.shinshu-u.ac.jp/education/policy/degree/>

各学部においては、学位授与方針に則した卒業要件が策定されWeb上及び学生便覧等により学生に周知されており、判定教授会において卒業認定が適切に行われている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.shinshu-u.ac.jp/education/policy/degree/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|-------------|
| 学校名 | 信州大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人 信州大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/list/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/list/ |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/list/ |
| 監事による監査報告(書) | https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/list/ |

2. 事業計画(任意記載事項)

| | |
|---|--------------------|
| 単年度計画(名称:) | 対象年度:) |
| 公表方法: | |
| 中長期計画(名称: 中期目標・中期計画) | 対象年度: 令和4年度~令和9年度) |
| 公表方法: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/plan/mediumterm/ | |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|--|
| 公表方法: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/check/news/2020/05/2019.html |
|--|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|--|
| 公表方法: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/check/evaluation_result/ |
|--|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 人文学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/) |
| (概要) 信州の大自然の織りなす四季のもと、都会の喧騒とほどよく距離をたもちつつ、時代や人間をみる確かな目と、他者や自然と共生できる豊かな感性を育む教育を行います。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/aim.php) |
| (概要) 本学部教育目標に掲げる【心と思考の実践知】【技と行動の実践知】の諸能力を有し、かつ卒業論文が審査基準を満たした者に対し、学士の称号を授与します。 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/aim.php) |
| (概要) 学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づき、各授業の目標を設定するとともに、カリキュラムを編成し、実施します。 |
| 入学者の受入れに関する方針 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/guidance/aim.php) |
| (概要) 人文学部の教育目標は、学部教育で培った「実践知」を基盤に批判的思考力を駆使できる、専門領域についての深い知識と領域横断的な課題を解決する能力とを兼ね備えた人材の育成です。そのために高等学校等を卒業するまでに学習するすべての教科についての基礎知識を習得しておくことが必要です。 本学部で学ぶために、以下のことを身につけておいてください。 1. 高等学校等における学習内容についての幅広い理解 2. 人文学諸分野の基礎となる国語、地理歴史、公民、外国語を中心とした高等学校等での学習内容への深い理解 3. 人間、社会、歴史、文化、言語、文学、情報、芸術などへの強い興味や関心 4. それらを探究し表現することの基本的な思考力とコミュニケーション能力 |

| |
|--|
| 学部等名 教育学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/) |
| (概要) 教育学部は、信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風や風土の中で、豊かな人間性と専門的知識及び実践に培う基礎的能力を身につけた、明日の教育を担う人材を育成します。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/education/policy/degree/education/) |
| (概要) 信州大学教育学部は、実践的な知の体系としての「臨床の知」の理念のもと、学校教員を |

| |
|---|
| <p>はじめとする教育の専門家として、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士(教育学)」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観 ・教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能 ・他者と協働して教育活動をつくる社会的スキル ・理論と実践を往還する省察と改善の態度 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/assets/pdf/education/policy/process/cp_e.pdf)</p> |
| <p>(概要) 信州大学教育学部は、教員養成大学としての使命と教育学部の理念・目標に基づく人材養成を行うために、次に掲げる科目群により教育課程を編成し、授業目標への到達度で成績評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の専門家に求められる豊かな教養を培う教養科目群 ○教育活動を支え、実現するための専門的知識・技能を培う教育科学、教科教育学に関する科目群 ○他者と協働して教育活動を推進する実践力と、理論と実践を往還する省察及び改善の態度を培う臨床経験科目群 |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/assets/pdf/education/policy/reception/ap2_e.pdf)</p> |
| <p>(概要) 教育学部では、「臨床の知」の理念のもと、附属学校園と一体となり、教育委員会や諸学校と連携し豊かな人間性と専門知識及び実践的な指導力を身につけた、明日の教育を担う人材の育成を目指しています。そのため本学部では次のような力を備えた学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明日の教育を担う専門的知識や教養を身につけるために高等学校等を卒業するまでに習得する十分な基礎的学力、又はそれに相当する学力 2. 既存の知識を活用しながら自分で考え、判断し、他者と協働して問題を解決していくために不可欠で基本的な思考力や表現力 3. 教育者として子どもに寄り添い、理論と実践を往還させつつ自ら学び、社会の発展に寄与しようとする強い意志 |

| |
|--|
| <p>学部等名 経法学部</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/)</p> |
| <p>(概要) 専門研究を深めることで現代社会に対する社会科学的な認識をより一層高め、社会に積極的に関わる主体を作り出すこと目指しています。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/econlaw/about/diprimapolicy.php)</p> |
| <p>(概要) 信州大学経法学部は、次の能力を身につけた学生に対して、各学科のディプロマ・ポリシーに従い、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら課題解決に導く力を身につける。 2 経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 3 社会資源の制約のなかで解決方法を創り出す能力、多様な価値観の中で対立を回避する危機管理能力を応用力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 |

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/econlaw/department/economy/curriculum.php>)

(概要)

専門教育は2つのステージにわかれ、第1ステージは「基礎科目」、第2ステージは「コース専門科目」及び「実践系科目」（応用経済学科の「実践教育科目」群と総合法律学科の「法務実習科目」群から構成される）を中心に構成される。これに加えて、応用経済学科には「法学系選択科目」群、総合法律学科には「実務講義科目」、「演習系科目」群、及び「経済学系選択科目」群がある。これに、キャリア形成のための「キャリア・デベロップメント科目」を両学科に加えて完結する。学生は、1・2年次において第1ステージから専門科目の履修を始め、第2ステージ以降のより発展的な科目の履修に備える。

- 1 専門分野の理論および分析手法の基礎力は、主に第1ステージに位置する専門科目の中の基礎科目の履修を通じて修得される。基礎科目には、経済学あるいは法学の体系の理論的基盤を構成する科目が含まれる。専門分野における理論や分析手法の応用力は、第2ステージのコース専門科目の履修を通して修得される。各学科には、理論や分析手法の応用場面として選定された社会的課題に対応した3つのコースが用意されており、学生はそのいずれかを選ぶ。
- 2 社会の現代的課題の特性について理解を深めるため、コース専門科目の中に、コースがターゲットとする社会的課題に関連する他分野との連携科目を配置する。他分野の考え方を学修し、社会科学の考え方との相違を確認することを通じ、広い視野を獲得するだけでなく、自らの専門分野を客観視して知見を深めることができる。
- 3 専門分野の応用力の育成は、知識の獲得に加えて、具体的な知識の使い方を技術として身につけることによって実質化される。このため、アクティブ・ラーニングの手法を多用して、学生の能動的な学修を促す「実践系科目」群を第2ステージに展開し、専門的知識と分析力を現場で結びつける実践力を身につける。
- 4 専門教育には、キャリア・デベロップメント科目として、英語を初めとする外国語およびインターンシップやボランティアの体験を通じた社会分析の科目等を配置し、学生は現代の産業社会が社会人に求める語学力やコミュニケーション能力といった資質を身につける。
- 5 上記の経法学部カリキュラムポリシーの基で、経法学部ディプロマポリシーが掲げる能力、すなわち、「社会科学の専門性を軸足として現代社会が抱える課題に対して解決方法を提案し、課題解決に導く力」を確実に身につけることができるよう、各授業科目は、シラバス等を通じて、授業の達成目標を明示する。その上で、達成目標に到達できるよう、学生が取り組む課題を配置し、課題への取り組み状況が成績に反映される。学生は、成績評価を通じて、達成目標への到達度を把握することができる。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定する。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定する。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/econlaw/prospective/policy.php>)

(概要)

経法学部は、経済学または法学を体系的に修得した上で、身につけた専門性を現代社会のさまざまな課題の現場で発揮し、課題解決のために能動的に貢献できる人材の育成を目標にしています。そのために高等学校等を卒業するまでに学習するすべての教科と科目についての基礎知識を習得しておくことが必要です。

本学部で学ぶために、高等学校等の各教科については以下のことを十分に身につけておいてください。

| |
|---|
| 1 高等学校等における学習内容の幅広い理解 2 社会科学諸分野の基礎となる高等学校等での国語、地理、歴史、公民、英語等の学習内容の深い理解 3 問題解決に際して、冷静で論理立った考察や、事実の観察、データの分析に基づいて思考できる資質 4 人口減少、高齢化の進展など、地域が直面する具体的な課題について問題意識を抱き、その解決に取り組む強い意欲 5 現在社会が直面する様々な不確実性、リスク、価値観や意見の違い、紛争、多様性などにひるまず、これらに積極的に立ち向かうチャレンジ精神 6 幅広い視野を持ち、様々な学問領域で生み出された成果や研究方法を総合的に取り入れながら真理を探究する姿勢 |
|---|

| |
|--|
| 学部等名 理学部 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/) (概要) 自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く人材、また、それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ人材を育てます。また、信州の優れた自然を体験的に教材として利用し、自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる後継者の育成に努めます。 |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/faculty/deploma-policy.html) (概要) 信州大学理学部は、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（理学）」の学位を授与します。 |
| 1. それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、幅広い領域を横断する視点で論理的・批判的に考える力。 [専門知識と批判的思考力] 2. 数学の理解や観察・実験によって、データや情報を収集・整理し、常識にとらわれない発想で研究を実践する力。 [実践的知力] 3. 様々な分野との議論と協働により課題を発見・解決し、積極性を発揮してその成果を公益に資する力。 [知的対話力、課題発見・解決力] 「専門知識と批判的思考力」「実践的知力」の修得は卒業に必要な必修科目および選択科目に関する必要単位の修得によって、「知的対話力、課題発見・解決力」の修得は、卒業研究や自ら選んだ特定課題の審査により判定します。 |
| 数学科 数学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「学士（理学）」の学位を授与します。 |
| 1. 数学の基礎的理論についての論理的な理解。 2. 数学の専門知識を、数学または自然科学の問題に応用することができる能力の習得。 3. 数学的能力を活用して科学と社会の発展に貢献する力の習得。 |
| 理学科 理学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「学士（理 |

学)」の学位を授与します。

1. 自然科学における知識と理論を深く学び、その法則性を理解し説明できる力。
2. 専門知識に基づく論理的な思考力と、分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応力と実践力。
3. 自然と科学との調和を重んじ、科学と社会の発展に貢献できる力と教養。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/faculty/curriculum-policy.html>)

(概要)

信州大学理学部は、以下の方針でカリキュラムを編成し教育を実施します。それぞれのコースでは、「標準」「学際」「先進」の3つの教育プログラムを用意し、学生が自らプログラムを選択しそれに従って学修をすすめます。

1. 理学部の学位授与の方針に基づいて、学生の成長に最も効果的なカリキュラムを設定します。それぞれの授業では学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度で成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
 - ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通じて、授業達成目標への到達度を判定します。
 - ・授業達成目標への達成度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。
2. 共通教育においては、教養科目と基礎科目を履修し幅広い人文・社会・自然科学の素養ならびに知的対話力を身につけられるよう教育課程を編成します。
3. 専門教育においては、学生自ら選択した学位取得ルートに従いつつ、以下の能力を育むよう教育課程を編成します。
- 1) 自然科学を幅広く学ぶために必要となる基礎知識。
 - 2) 講義・演習での専門知識と論理的な思考力。
 - 3) 実験・実習・演習での実験データの収集と解析能力。
 - 4) セミナー発表などでの知的対話力と批判的な判断力。
 - 5) 卒業研究などでの研究の計画と立案、及び問題を発見し解決する能力。
4. 高等学校と中学校の教員免許、および博物館学芸員資格を取得するための科目を設定します。

数学科

数学科は、当学科の学位授与の方針のもと、次の項目を意識してカリキュラムを編成し、教育を実施します。

現代数学を理解するのに必要な基礎知識の習得および論理力の養成

理論を応用し、問題を解決する能力の養成

学習進度に応じた授業内容の設定

卒業研究などによる研究課題の探求と解決

1年次・2年次前期では、豊かな教養を身につけるとともに、数学・自然情報学への入門をはたします。2年生後期以降では、次の2コースの一方を選択し、各コースの授業課程にしたがって専門知識を習得します。

- ・**数理科学コース**：数学における代数学・幾何学・解析学の学修を行う。
- ・**自然情報学コース**：自然科学との有機的関連を意識しながら数学の学修を行う。

理学科

理学科は、当学科の学位授与の方針のもと、次の項目を意識してカリキュラムを編成し、教育を実施します。

- ・個々の学生のニーズに応じた効果的な授業課程
- ・個々の学生に行き届く指導体制
- ・基礎学力の養成

| |
|--|
| ・社会人として不可欠な能力の養成 |
| <p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/uploads/04_R4_nyuugakushaukeirehoushin.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学理学部は、学部の基本理念・教育目標に基づき、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、地理歴史、公民、外国語で学習したことを身につけている。 2 理学部の専門科目を学ぶ上で基礎となる数学、理科を能動的に学び、その学力を身につけている。 3 ものごとを論理的にとらえて深く考え、自分の考えについて筋道を立てて表現することができる。 4 自然界の多種多様な現象に対する旺盛な知的好奇心や探究心を持つとともに、協力して課題解決に取り組むために必要な力を有している。 |

| |
|--|
| <p>学部等名 医学部医学科</p> |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>豊かな人間性、広い学問的視野と課題探求能力を身につけた臨床医、医療技術者や医学研究者などを育成するとともに、高度で個性的な医科学研究を行います。また医科学の教育・研究と医療活動を発展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与します。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/admission/diploma/igakuka_diplomapolicy.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学医学部医学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士(医学)」の学位を授与する。</p> <p>「意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。 ・医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。 <p>「思考・判断」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。 <p>「コミュニケーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。 <p>「技能・知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。 ・常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/admission/diploma/igakuka_curriculumpolicy_21_02.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部医学科のディプロマポリシーに掲げた「意欲・態度」「思考・判断」「コミュニケーション」「技</p> |

能・知識」の各項目を備えた医療人、医学研究者を育成するため、以下のような考え方に
基づきカリキュラムを作成し、授業シラバスに明示された、学位授与の方針に基づき設定
した授業目標への到達度にて成績を評価します。

【評価方法】

- ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。
- ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。

温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけるために、専門教育と並行して教養教育及び医療倫理教育を実施し、まずは社会人として、その後医師としての高い見識と誠実な態度の醸成を図ります。また、疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得するために、低学年から専門基礎科目と専門科目を積み上げていきます。基礎医学講義・実習と並行して、グループディスカッションにより臨床症例問題の解決を図る少人数教育を行うことで、基礎医学的知識の統合的理解および基礎医学的知識と臨床医学的知識の融合を図ります。加えて、課題解決型の実習により、常に最新の情報を収集する技能の向上と様々な情報を総合的に判断する能力の向上を図ります。臨床医学講義・実習では、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関連する基礎医学知識の確認や、臨床医学の基本的知識の習得を図ります。症例検討型の授業を取り入れることで、基本的知識の深い理解をうながします。

患者やその家族との意思疎通やチーム医療を推進する能力を身に付けるべく、低学年時から他学科と合同して行う講義や実際の患者と触れ合う機会を取り入れます。

臨床実習では、それまでに身に付けた知識や態度、技術を繰り返し確認することで、医師として求められるレベルにまで引き上げていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/assets/pdf/education/policy/reception/ap5-1_m.pdf)

(概要)

本学科では次のような学生を求めています。

1. 医師となる明確な目的意識を持っている
2. 大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語で学習したことを身につけ、医学を学んでゆくにあたって必要な基礎学力がある
3. 医師となるのにふさわしい協調性、決断力、積極性を持っている
4. 病める人を救う情熱、思いやりと奉仕の心、倫理観を持っている
5. 将来の人類のために創造的な医学研究を志向するに必要な思考力・判断力の素養と探究心を持っている

学部等名 医学部保健学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/>)

(概要)

豊かな人間性、広い学問的視野と課題探究能力を身につけた高度な保健・医療の専門職者や保健学研究者を育成することで、保健学の教育・研究と保健・医療活動を発展させ、地域貢献を果たすことを目標にしています。

卒業の認定に関する方針

| |
|---|
| <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/admission/diploma/hoken_diplomapolicy.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学医学部保健学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士（看護学）」又は「学士（保健学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。 ・ 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。 ・ 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。 ・ 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。 ・ 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。 ・ 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/admission/diploma/hoken_curriculumpolicy_20_02.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学が定めたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを受け、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーに掲げた「対象の全人的理解」、「科学的根拠に基づいた判断」、「感性、知識、技術の獲得」、「チームの一員としての協働活動能力」、「文化の多様性の理解と国際的視野に基づく保健・医療活動の理解」、「幅広い教養と探求的、創造的思考に基づく課題解決能力」の各能力を備えた高度な保健医療専門職者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを整備し、授業シラバスに明示された学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度に基づいて成績を評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康と生活を支援することができるよう、「環境・健康」などの教養科目や、保健学科共通科目・専攻専門科目を設置している。 2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができるよう、保健学科共通科目・専攻専門科目を設置している。 3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できるよう、保健学科共通科目・専攻専門科目を設置している。 4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できるような能力を修得するため、保健学科共通科目・専攻専門科目を設置している。 5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できるよう「人文・社会」「言語」などの教養科目、保健学科共通科目や専攻専門科目を設置している。 6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができるよう、「自然・技術」などの教養科目、保健学科共通科目や専攻専門科目を設置している。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/assets/pdf/education/policy/reception/ap5-2_p.pdf)</p> |

| |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>保健学科は、専門性の異なる看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻で構成され、豊かな人間性、広い学問的視野と課題探究能力を身につけた高度な保健・医療の専門職者や保健学研究者を育成することで、保健学の教育・研究と保健・医療活動を発展させ、地域貢献を果たすことを目標にしています。このため、保健学科では、卒業時における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に到達可能な入学者を受け入れることを目的として、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に対し積極的に関わり、“人”に深い関心と思いやりの心を持ち、保健・医療分野の専門職としての役割を果たそうとする明確な目的意識と高い倫理観を持っている 2. 大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語で学習したことを身につけ、保健学科で専門分野を学んでゆくにあたって必要な基礎学力と論理的思考力がある 3. 絶え間なく進歩する科学を保健・医療に適用していくための判断力・思考力・表現力の素養と国際的視野を持っている |
|--|

| |
|---|
| <p>学部等名 工学部</p> |
| <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>基礎的学力の素養のもとに工学の幅広い専門的知識を有する創造性豊かな人材を養成します。また、科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成します。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/prospective-students/docs/DP2022%EF%BD%9E.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>信州大学工学部の理念と目標及び各学科の目的に則り、以下及び各学科のディプロマ・ポリシーに掲げる知識と能力を十分に培った学生に「学士（工学）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身につけている。 2. 専門分野における専門的学力が身につけている。 3. 専門的学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身につけている。 4. 様々な課題を見つけ取り組む力が身につけている。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/prospective-students/docs/CP2021.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>カリキュラムは、共通教育と専門教育に分類でき、教養教育では初年次教育と教養科目、基礎科目から構成される。専門教育は、学部共通科目、エンジニアリング科目、学科共通科目、分野専門科目により構成され、徐々に専門性を増すように体系化されている。それぞれについては以下の通りである。なお、授業においては、学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度で成績評価する。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定する。 ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定する。 ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定する。 |

●共通教育では、まず、初年次教育として大学生として自ら学ぶ姿勢を養成した後、教養科目と基礎科目を通して幅広い人文・社会科学の教養ならびに国際的なコミュニケーション能力を身につける教育を行う。

●専門科目は、学部共通科目、エンジニアリング科目、学科共通科目、分野専門科目からなり、順に専門性が増す形で構造化している。学部共通科目では、数学等の工学基礎科目の他に、環境マインドや技術者としての倫理観を育てる教育を行う。

また、エンジニアリング科目を通して工学の幅広い基礎知識を身につけ、工学的な課題についてはどんなことでも、その解決に向け、目星が付けられる能力を養う。学科共通科目では、各学科に共通する専門基礎科目を修得し、各学科に関連した事柄については、専門家と協力して問題解決の図れる能力を養う。分野専門科目では、自分の専門分野で自信を持って仕事の出来る能力を養う。

●最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行う。また、自分の研究を他者に対して筋道を付けて分かり易く説明するプレゼンテーション能力を養う。

入学者の受入れに関する方針
 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/ad_portal/uploads/06_R4_nyuugakushaukeirehoushin.pdf)

(概要)

信州大学工学部は、豊かな教養と工学の幅広い専門知識を持ち、科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って、社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人の養成を目標としています。そのため本学部では次のような素養を備えた学生を求めています。

| | 該当する「学力の3要素」 | | |
|--|--------------|-------------|-----------------------|
| | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 |
| 1. 大学入学前の高等学校の課程等を幅広く学び、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語で学習したことを身につけている | ○ | ○ | |
| 2. 工学の基礎となる高等学校等で学ぶ数学、理科、外国語に優れている | ○ | ○ | |
| 3. 科学や技術に関わるさまざまな現象に興味があり、それらの原理や応用について学ぶことに強い意欲を持つとともに学ぶために必要な論理的思考力・判断力・表現力の素養を持っている | | ○ | ○ |
| 4. 向上心があり、自らの目標を定め、積極的に学ぼうと努力する | | | ○ |
| 5. 工学に関わる技術者、研究者として社会をリードしようとする意欲があり、その技術と知識をもって社会に貢献する明確な目的意識を持っている | | | ○ |

学部等名 農学部
 教育研究上の目的

| |
|---|
| <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/)</p> <p>(概要)</p> <p>信州の豊かな自然と風土のもとで、食料・環境・生命を支える農学を基盤とし、高度に進展する生命科学の視座を踏まえ、専門性、実践性、創造性、倫理性の高い教育と研究を行うとともに、自然と人が共生する持続的社会の創造を目指し、広い視野と課題探求能力、国際性を備えた人材を養成します。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/overview/policy/diploma.php)</p> <p>(概要)</p> <p>信州大学農学部理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士(農学)」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな人間性と幅広い教養を修得している。 2 農学に関する広い知識・技術を修得している。 3 専門的な知識や研究能力を修得している。 4 地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/assets/pdf/education/policy/process/cp_a.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>信州大学農学部では学部の学位授与の方針(ディプロマポリシー)に掲げる知識・能力を修得させるため、農学生命科学科各コースの共通教育科目および専門科目を修学の進行度に合わせて体系的に編成し、講義、演習、実験・実習などを適切に組合せた授業を開講します。各授業の学修成果は、各授業で学位授与の方針に基づき設定した達成目標への到達度で評価します。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。 ・演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。 ・授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/overview/policy/admission.php)</p> <p>(概要)</p> <p>信州大学農学部は、生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用力を身につけ、持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな専門職業人の養成を目標にしています。</p> <p>そのため本学部では次のような素養を備えた学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語で学習したことを身につけている 2. 農学の基礎となる高等学校等で学ぶ数学、物理学、化学、生物学、語学などに優れている 3. 生命科学や農林業技術に関わるさまざまな現象に興味があり、それらの原理や応用について関心を持つとともに論理的思考力・判断力・表現力等の素養を持ち、これらについて学びたいと考えている 4. 生命科学や農学分野の実験や実習、講義、課題探求に意欲的に参加できる 5. 自然と人が共生する持続的社会の創造を目指して、社会に貢献する明確な目的意識を持っている |

| |
|--|
| 学部等名 繊維学部 |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/purpose/)</p> |
| <p>(概要) 衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的先端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓します。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/guidance/dp.html)</p> |
| <p>(概要) 信州大学繊維学部の理念と教育目標に基づき、以下の能力や知識を身につけ、各学科が定める審査に合格した学生に「学士」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普遍的基礎学力 繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力が身に付いている。 ・ 情報リテラシーとコミュニケーション能力 必要な情報を的確に収集し理解できるとともに、自ら適切な手段により発信し、他者に働きかける能力が身に付いている。 ・ 創造的課題解決能力 繊維科学を基盤とし、現実の課題を解決するために、学際・業際領域を切り拓く創造的能力が身に付いている。 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/curriculum/curriculumpolicy2.html)</p> |
| <p>(概要) (1) 共通教育においては、人文・社会科学、自然科学など、幅広い分野の教養科目を履修し、豊かな人間性、高い倫理観、社会に対する貢献と責任意識を養います。専門教育の導入科目としての基礎科目を履修し、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる普遍的基礎学力を養います。また、国際的なコミュニケーション能力（外国語能力と個性豊かな表現力）や、本国文化・異文化理解力を高めるために、外国語科目を履修します。 (2) 専門基礎教育では、応用物理、応用化学、応用生物学などの分野についてバランスよく学び、自然科学の幅広い知識を身につけるとともに、課題設定、探求能力などを養うために、基礎的な実験、実習を履修します。 (3) 専門教育では、総合科学としての繊維科学をより深く学ぶための感性工学、材料化学、機械・ロボット学、繊維工学、繊維生物学などの専門的な知識を習得します。技術者倫理、経営・企画に関わるマネジメント能力などの実践的能力を養います。 (4) 卒業研究を通して、現実の課題解決に資する先端的な繊維研究ならびに境界領域の研究に触れ、研究の方法を学ぶとともに、学際的視野を広げ、自由な発想と柔軟な創造的能力を身につけます。 (5) 授業で身につける能力を明確にし、そのために必要とされる適正な授業目標を設定します。成績は学位授与の方針に基づき設定した授業目標への到達度により評価します。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義科目においては、理解度を見る筆記試験やレポート、参加度により、授業達成目標への到達度を判定します。 ・ 演習、実験、実習、実技科目においては、試験やレポートに加え、参加度や発表内容、実技等を通して、授業達成目標への到達度を判定します。 ・ 授業達成目標への到達度は、可能な限り複数の評価手段によって判定します。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles//admissions/policy.html)</p> |
| <p>(概要) 繊維学部は衣・食・住の要である“繊維”に根ざした先進的な科学技術を背景として、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専</p> |

門職業人、研究者の養成を目標にしています。繊維学部ではこの目標に基づき、次のような意欲を持った学生を求めています。

1. 大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語で学習したことを身につけている。
2. 現代の多様な学問分野を融合した学際領域的な科学技術を学ぶことに強い関心を持ち、それらを学ぶために必要な思考力・判断力・表現力の素養を持っている。
3. 日々進化する科学と技術に対応して学び続け、より高い専門的・実践的能力を得ることに明確な目的意識と強い勉学意欲を持っている。
4. 地域社会や国際社会に貢献するために必要な、豊かな教養と人間性を高めようとする意欲を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/staff/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|--|--------|---|------|-----|------|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 10人 | — | | | | | 10人 |
| 人文学部 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 教育学部 | — | 2人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 2人 |
| 経法学部 | — | 1人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 1人 |
| 理学部 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 医学部（修業年限6年） | — | 2人 | 4人 | 3人 | 30人 | 1人 | 40人 |
| 医学部（修業年限4年） | — | 0人 | 0人 | 2人 | 0人 | 0人 | 2人 |
| 工学部 | — | 0人 | 1人 | 0人 | 1人 | 0人 | 2人 |
| 農学部 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 2人 | 2人 |
| 繊維学部 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 教養部（一般教育） | — | 2人 | 2人 | 2人 | 5人 | 0人 | 11人 |
| 大学院 | — | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 | 0人 |
| 附属病院 | — | 3人 | 2人 | 4人 | 80人 | 0人 | 89人 |
| その他 | — | 307人 | 270人 | 68人 | 215人 | 2人 | 862人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | 計 | |
| 0人 | | 505人 | | | | 505人 | |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法： http://www.shinshu-u.ac.jp/soar/ | | | | | |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| 高等教育研究センターが中心となり、全学的なFDの企画開催と各部局におけるFDの実施支援など、大学教育を支える教員等の支援を行っている。オンラインコンテンツを作成し全教員にFDを提供できる環境を整えている。 | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
|------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 人文学部 | 155人 | 164人 | 105.8% | 630人 | 704人 | 111.7% | 5人 | 1人 |
| 教育学部 | 240人 | 253人 | 105.4% | 960人 | 1005人 | 104.7% | 0人 | 0人 |
| 経法学部 | 180人 | 188人 | 104.4% | 780人 | 790人 | 101.3% | 20人 | 0人 |
| 理学部 | 205人 | 213人 | 103.9% | 828人 | 867人 | 104.7% | 4人 | 1人 |
| 医学部 | 263人 | 266人 | 101.1% | 1326人 | 1339人 | 101.0% | 17人 | 0人 |
| 工学部 | 485人 | 491人 | 101.2% | 1980人 | 2124人 | 107.3% | 20人 | 30人 |
| 農学部 | 170人 | 173人 | 101.8% | 692人 | 725人 | 104.8% | 6人 | 4人 |
| 繊維学部 | 280人 | 293人 | 104.6% | 1140人 | 1233人 | 108.2% | 10人 | 8人 |
| 合計 | 1978人 | 2041人 | 103.2% | 8336人 | 8787人 | 105.4% | 82人 | 44人 |
| (備考) | | | | | | | | |

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

| 学部等名 | 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
|--|------------------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 人文学部 | 142人 (100%) | 12人 (8.5%) | 106人 (74.6%) | 24人 (16.9%) |
| 教育学部 | 250人 (100%) | 37人 (14.8%) | 199人 (79.6%) | 14人 (5.6%) |
| 経法学部 (経済学部) | 197人 (100%) | 7人 (3.6%) | 169人 (85.8%) | 21人 (10.7%) |
| 理学部 | 203人 (100%) | 112人 (55.2%) | 70人 (34.5%) | 21人 (10.3%) |
| 医学部 | 268人 (100%) | 22人 (8.2%) | 114人 (42.5%) | 132人 (49.3%) |
| 工学部 | 499人 (100%) | 310人 (62.1%) | 159人 (31.9%) | 30人 (6.0%) |
| 農学部 | 166人 (100%) | 71人 (42.8%) | 70人 (42.2%) | 25人 (15.1%) |
| 繊維学部 | 301人 (100%) | 225人 (74.8%) | 67人 (22.3%) | 9人 (3.0%) |
| 合計 | 2,026人 (100%) | 796人 (39.3%) | 954人 (47.1%) | 276人 (13.6%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (進学先) 信州大学大学院, 東北大学, 東京工業大学, 名古屋大学, 北海道大学 | | | | |
| (就職先) 学校教員, 地方公務員, 国家公務員, 大学附属病院, セイコーエプソン, 新光電気工業, J R 東日本・J R 東海, 八十二銀行, 本田技研工業, 日本赤十字社病院・機関 | | | | |
| (備考) | | | | |
| 改組前の学科を含む。 | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） | | | | | |
|--|-----------------|------------------|-----------------|---------------|--------------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| 人文学部 | 156人 (100%) | 104人 (66.7%) | 37人 (23.7%) | 14人 (9.0%) | 1人 (0.6%) |
| 教育学部 | 250人 (100%) | 229人 (91.6%) | 15人 (6.0%) | 5人 (2.0%) | 1人 (0.4%) |
| 経法学部 (経済学部) | 193人 (100%) | 162人 (83.9%) | 26人 (13.5%) | 5人 (2.6%) | 0人 (0%) |
| 理学部 | 209人 (100%) | 168人 (80.4%) | 25人 (12.0%) | 16人 (7.7%) | 0人 (0%) |
| 医学部 | 268人 (100%) | 238人 (88.8%) | 26人 (9.7%) | 4人 (1.5%) | 0人 (0%) |
| 工学部 | 499人 (100%) | 415人 (83.2%) | 66人 (13.2%) | 18人 (3.6%) | 0人 (0%) |
| 農学部 | 175人 (100%) | 150人 (85.7%) | 19人 (10.9%) | 5人 (2.9%) | 1人 (0.6%) |
| 繊維学部 | 297人 (100%) | 259人 (87.2%) | 27人 (9.1%) | 11人 (3.7%) | 0人 (0%) |
| 合計 | 2047人 (100%) | 1725人 (84.3%) | 241人 (11.8%) | 78人 (3.8%) | 3人 (0.1%) |
| (備考) その他の3名は、計画的特例履修適用により在学中 | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| (概要) |
|--|
| シラバスは、本学シラバスガイドラインに則り、①授業の基本情報（担当教員名、単位数、曜日・時限等）、②授業のねらい、③授業の概要（実務経験のある教員等による授業科目である旨の記載を含む）、④授業計画、⑤成績評価の方法、⑥成績評価の基準、⑦事前・事後学習に関する情報、⑧履修上の注意、等の項目について作成されており、作成内容の点検を経て、学生の授業選択、時間割作成時には、学外からのアクセスも可能なWeb上のシステムにて公表されている。 |

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) | | | | |
|--|---------------------------|-----------------|----------------------|--|
| 成績は、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表し、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、必要と認める場合は、合格及び不合格の評語を用いることができる。 | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる 単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
| 人文学部 | 人文学科 | 130単位 | 有 | 1年 各学期 28単位 2年 各学期 24単位 3年 各学期 24単位 4年 各学期 24単位 |
| 教育学部 | 学校教育教員養成 課程 現代教育コース | 138単位 | 有 | 1年 各学期 24単位 2年 各学期 24単位 3年 各学期 24単位 |

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|--------|---|--|--|
| | 学校教育教員養成 課程 野外教育コース | 137 単位 | 有 | 4 年 各学期 24 単位 | |
| | 学校教育教員養成 課程 国語教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 英語教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 社会科教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 数学教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 理科教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 音楽教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 図画工作・美術教 育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 保健体育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 ものづくり・技術 教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 家庭科教育コース | 140 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 特別支援教育コー ス | 137 単位 | 有 | | |
| | 学校教育教員養成 課程 心理支援教育コー ス | 142 単位 | 有 | | |
| 経法学部 | 応用経済学科 | 128 単位 | 有 | | 全学年 共通教育科目は各 学期 24 単位以内、か つ共通教育科目と専 門科目あわせて年間 44 単位以内 |
| | 総合法律学科 | 128 単位 | 有 | | |
| 理学部 | 数学科 | 124 単位 | 有 | 1 年 年間 54 単位 2 年 年間 48 単位 3 年 年間 46 単位 4 年 年間 44 単位 | |
| | 理学科 物理学コース | 124 単位 | 有 | | |
| | 理学科 化学コース | 124 単位 | 有 | | |
| | 理学科 地球学コース | 124 単位 | 有 | | |

| | | | | |
|------|----------------------------|--------|---|---|
| | 理学科 生物学コース | 124 単位 | 有 | |
| | 理学科 物質循環学コース | 124 単位 | 有 | |
| 医学部 | 医学科 | 198 単位 | 有 | 共通教育科目 1年 各学期 24 単位 2年 前期 10 単位 2年 後期 4 単位 専門科目 登録上限なし |
| | 保健学科 看護学専攻 | 129 単位 | 有 | 1年 各学期 32 単位 2年 各学期 32 単位 3年 各学期 30 単位 4年 各学期 30 単位 |
| | 保健学科 検査技術科学専攻 | 134 単位 | 有 | 1年 各学期 37 単位 2年 各学期 37 単位 3年 各学期 25 単位 4年 各学期 25 単位 |
| | 保健学科 理学療法学専攻 | 126 単位 | 有 | 1年 各学期 28 単位 2年 各学期 28 単位 3年 各学期 25 単位 4年 各学期 25 単位 |
| | 保健学科 作業療法学専攻 | 125 単位 | 有 | 1年 前期 30 単位 後期 28 単位 2年 各学期 28 単位 3年 各学期 28 単位 4年 各学期 28 単位 |
| 工学部 | 物質化学科 | 125 単位 | 有 | 1年 各学期 24 単位 2年以上 年間 48 単位 |
| | 電子情報システム 工学科 | 124 単位 | 有 | |
| | 水環境・土木工学 科 | 125 単位 | 有 | |
| | 機械システム工学 科 | 124 単位 | 有 | |
| | 建築学科 | 124 単位 | 有 | |
| 農学部 | 農学生命科学科 生命機能科学コース | 128 単位 | 有 | 1年 各学期 28 単位 2年 各学期 28 単位 3年 各学期 28 単位 4年 各学期 28 単位 |
| | 農学生命科学科 動物資源生命科学 コース | 128 単位 | 有 | |
| | 農学生命科学科 植物資源科学コース | 128 単位 | 有 | |
| | 農学生命科学科 森林・環境共生学 コース | 128 単位 | 有 | |
| 繊維学部 | 先進繊維・感性工 学科 | 124 単位 | 有 | 1年 各学期 24 単位 2年 各学期 24 単位 3年 各学期 24 単位 4年 各学期 24 単位 |
| | 機械・ロボット学 科 | 124 単位 | 有 | |
| | 化学・材料学科 | 127 単位 | 有 | |

| | | | | |
|-------------------------|---------|---|---|--|
| | 応用生物科学科 | 125 単位 | 有 | |
| G P A の活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法：教員及び当該授業の受講学生に対して Web 上で成績評価分布を公表している。 | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法：該当なし | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/guide/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|------|-----|-------------|-----------|-----|-------------|
| 人文学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 教育学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 経法学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 理学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 医学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 工学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 農学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |
| 繊維学部 | — | 535,800 円 | 282,000 円 | 円 | |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|---|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 担任等が担当学生と面談し、修学指導を実施している。学生が必要な時期に十分な内容の支援が受けられるよう、ラーニング・アドバイザー、ライティング・アドバイザーによる相談が受けられる学修支援サービス「ピアサポ@Lib」を展開している。 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) ・個別就職相談 (キャリアカウンセリング) 就職活動を展開する上での様々な悩みの解決 ・学内合同企業(官公庁)説明会開催 県内外企業・官公庁合同説明会を開催 ・就職ガイダンス開催 就職活動に関する情報提供、及び企業・業界研究 ・キャリア形成支援 低年次向け講座・イベントの実施 ・就職活動ガイドブック作製・配布 就職活動中のスケジュール管理や必要な知識の習得 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) 以下の取り組みを実施している。 ● 学生健康診断及び健診結果を踏まえた事後指導、並びに応急措置・健康相談対応 ● 健康保持増進対策としての各種教室、講演会等の実施 ● メンタルヘルス対策としてのカウンセリング ● メンタルヘルスに関する講演会、学生向けガイダンス等の実施 ● 心身の健康の維持増進をテーマとする講義の担当 詳細は、「信州大学総合健康安全センター年報」を参照 → https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/kenkou/nenpo/ |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|---|
| 公表方法： https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/education/ |
|---|

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|-------|---------------|
| 学校コード | F120110105771 |
| 学校名 | 信州大学 |
| 設置者名 | 国立大学法人 信州大学 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|------|------|------|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 662人 | 658人 | 705人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 354人 | 359人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 195人 | 201人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 113人 | 98人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 25人 |
| 合計（年間） | | | | 730人 |
| (備考) | | | | |

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | — | | |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下) | — | | |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 0人 | | |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 38人 | | |
| 計 | 47人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---------|---|---|-----|
| 年間 | — | 前半期 | 後半期 |
| | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 退学 | 0人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告 | 0人 |
| 年間計 | 0人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|--|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下) | 0人 | | |
| GPA等が下位4分の1 | 68人 | | |
| 出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況 | 0人 | | |
| 計 | 68人 | | |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。